

国際交流基金助成事業報告書

薬学部 1 年次生 橋本 歩美

2018 年 2 月 11 日から 3 月 3 日までの 3 週間、アメリカのサンタバーバラで短期語学留学を行いましたので、報告いたします。

1. 語学学校

サンタバーバラでは、EF という語学学校に通いました。日本にいる間にパソコンで reading と listening のテストを受け、興味のある分野や苦手な分野について選択し、それをもとにクラス編成が行われました。クラスは 18 もあり、自分に合ったクラスに入ることができました。

日本の春休みの時期であったので、日本人が多く、私は日本人が 6 人、フランス人が 3 人、チリ人が 2 人、コロンビア人とオランダ人が 1 人ずつという約半分が日本人のクラスに入りました。しかし、クラスでは英語以外禁止であったため、たくさんの国籍の人と話をすることができました。授業の課題には Instagram に投稿したり、健康についてのインタビューを行った後、新聞記事を書いて投稿したりするものもあり、とても興味深い授業を受けることができました。通常の授業以外にも、選択クラスを受講することもでき、発音についてグループワークを行う授業や、外部講師の方を呼んで話を聞く授業を受けることができました。自分の苦手や興味について深く触れることができとても面白かったです。



2. ホームステイ

ホームステイ先はホストマザー、ホストファザー、娘 2 人、おじいちゃん、おばあちゃんの 6 人家族でした。メキシコ人の家族で、私がうまく言いたいことを伝えられなくても、いつもゆっくりと聞いてくれました。一緒にテレビを見たり、海や山に連

れて行ってくれたり、星や夕日を見たり、本当にいろいろなところに連れて行ってくれ、本当の家族のように迎え入れてくれました。友人のホームパーティーにも参加し、アメリカだけでなく、メキシコの文化にもたくさん触れることができました。

3. アメリカでの生活について

EFには毎日様々なイベントがあり、自由に参加することができました。バレンタインの日にはパンケーキやカップケーキを焼いてくれたり、毎週木曜日にはconversation café という UCSB の生徒とゲームをしながら会話ができるカフェに行ったりして、文化に触れつつ、語学を学びました。

しかし、海外の人と話をするうえで一番痛感したのは、語彙力のなさではなく、話題のなさでした。日常会話をするうえで自分の語彙は、そこまで少なくはなく、困るものではありませんでした。しかし、conversation café でネイティブスピーカーと話すとき、何を言っているのかは分かるけれど自分の意見が無いということが本当に多く、一緒に盛り上がることはできませんでした。まずは日本語で自分の意見を言えるようになり、ある程度話題についていけるように教養をきちんと身に着けることが課題だと思いました。



4. 最後に

私は、薬学部で学びながら、小さいころからの夢であった留学ができるとは思っていなかったのもので、この制度を利用することができて本当にうれしく思います。この3週間で経験したことは、私にとってかけがえのないものになりました。海外旅行をするのではなく現地で生活している人と一緒に過ごすことで、旅行では見えない文化や宗教の違いを体感でき、歴史的な背景も見ることができました。日常の会話だけでなく、もっと深い話をしてみたかったし、もう少し流ちょうに会話をしたかったという後悔もあります。この気持ちを糧にこれからの英語の学習も頑張りたいと思います。このような機会を与えてくださってありがとうございました。